

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		家電量販店（地区統括部長）	・暖冬で冬物は厳しいものの、積極的な販促策で需要を喚起できる状況にある。
		旅行代理店（従業員）	・このまま、海外旅行が回復していくとみている。しかしながら、SARSがどう出るのが問題である。
		通信会社（企画担当）	・全体的に客の間で、景気の底という風潮があり、うっ積しているパワーがそろそろはじける気配を感じる。
		観光名所（役員）	・観光入込動向等が上向きである。
		その他レジャー施設（職員）	・来春から北海道に本拠地を移すプロ野球チームの本格的な活動が始まる。
		設計事務所（所長）	・同業者の様子からも、業界の淘汰がある程度進んだ感がある。希望的観測ではあるが、生き残った企業の景気は良くなるのではないかと。
変わらない		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン減税が延長となったので、客の家を建ててみようかという気持ちも少し吹き返したのではないかと期待感を持っている。
		商店街（代表者）	・消費者に直接景気が良くなったと実感するものはなく、このままのトレンドが続く。地域においても消費を刺激する要素がない。
		一般小売店〔土産〕（店員）	・例年は春先もスキーツアーがあるが、このまま暖冬で終われば、雪が早く溶けてスキーシーズンが終わってしまい、かなりの影響が出ることになる。
		百貨店（売場主任）	・ボーナスが厳しかったため、今後の客の消費動向が懸念される。
		スーパー（店長）	・12月商戦をみても非常に厳しい状況で終わっており、消費拡大の方向に向かうとは全く思えない。
		スーパー（店長）	・目玉商品だけが売れる傾向が依然として続いているうえ、客単価、来客数も右下がりの状態が続いているので、今後も状況は変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・客との会話のなかで、いつリストラされるか分からない人が一杯だと聞いており、景気が良くなるとは思えない。
		衣料品専門店（店員）	・季節に関係なく、今後も低単価商品の中心の動きになる。1万円以上の衣類を購入する客の数は増加するとは思えない状況である。
		家電量販店（店員）	・1月の初売りは売れるが、それ以降は前年と変わらない状況になる。ただしパソコンの新製品が出るので多少は期待できる。
		住関連専門店（経営者）	・良くなる要素が見当たらないが、ネットショッピングは依然として好調であり、全体としては変わらない。
		住関連専門店（営業担当）	・客は必要以外の商品は安くても買わないうえ、必要な量しか買わない。一人当たりの買上点数も前年をやや下回って推移しており、消費者の心理は使うよりためる方向にある。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・来客数の減少がやっとな鈍化してきた。今が最底辺のように見えるが、それでも良くなるようには思えず、全体としては変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・昨年の11月以来、客の動向は低迷しており、回復する動的要因を見いだせない。
タクシー運転手	・客の話を聞いても、東京では景気回復の兆しがあるようだが、北海道ではどの業界でも景気が悪くなっている話ばかりであり、どの業界で売上も落ちているように聞いている。		
やや悪くなる		スーパー（企画担当）	・アメリカ産牛肉のBSE問題は年末商戦に徐々に影響が出てきており、恐らくは年末年始が落ち着いた年始明け頃から、客の本格的な牛肉離れが表面化するものと思われる。それは、一時的な現象であったとしても、消費意欲に与える影響は大きい。
		コンビニ（エリア担当）	・公共工事の減少による失業者の増加が依然として続いていく。特に年末から年度末にかけてその影響が来客数に色濃く現れるのではないかと。
		コンビニ（エリア担当）	・年金に対する不安や競合店の増加により、営業環境がますます厳しくなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・1月と2月の予約状況が悪く、3月は年度末を迎え、一段と外食控えが厳しくなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・ここ数か月売上が少しずつ落ちており、この傾向がこの先も続く。

		観光型ホテル（スタッフ）	・札幌圏の需要が3分の2を占める定山溪地区が道内景気の不振を反映して落ち込んでおり、また、今後シーズンオフに入り急激な回復への足がかりもないため、かなりの苦戦が予想される。
悪くなる		スーパー（店長）	・客は低単価商品へシフトするなど、シビアな商品選択をしているうえ、購入も必要最小限のものとなっている。こうした傾向は今後も継続する。
		コンビニ（エリア担当）	・客の給与等の実質的な収入が減っている。
		コンビニ（エリア担当）	・酒の自由化に伴い酒販店が更に増え、その競争によって酒類の売上の減少が予想される。
		観光型ホテル（経営者）	・人的サービス・料理など、量より質の向上に努めているが限界である。集客は営業力強化で、ある程度努力できるが、館内消費の伸び悩みが頭痛のタネである。
		旅行代理店（従業員）	・12月に入っての販売量は、海外旅行・国内旅行とも前年を大きく割っており、実際に旅行に出発する今後の動向は下降に向かう。
		旅行代理店（従業員）	・旅行需要が例年並みに戻らず、3月の受注状況が不透明である。
企業 動向 関連	良くなる	金属製品製造業（統括）	・手持ちの受注残が昨年より多く、新規受注も期待できる。
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・高級品の動きがやや良くなっている。
		輸送業（支店長）	・輸出资本の道内経済発展はそれに対応する企業が道内には少ないため、あまり多くは望めないものの、多少の改善は見込める。
		輸送業（営業担当）	・道産ビートやでん粉の出来高が好調で各保管倉庫は満庫の状態となる見込みである。また、紙の輸出や飼料原料の輸入量が増える見込みである。
		通信業（営業担当）	・今年度の目標達成、来期の予算増額など会社業績の上方修正的な話をする取引先が増えている。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・本州向け木材乾燥装置の受注が相次ぎ、ステンレス材料・ヒーター・送風機などの荷動きが目立ってきた。メーカーでは数か月分の受注残を抱えており、春先までこの状態が期待できる。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・水産物最大の需要期である年末ギフトの時期が終わり、例年荷動きが悪くなる時期であるが、今後、年金などの公的負担増に対する自己防衛意識が動き出す。
		金融業（企画担当）	・社会保障費の負担増が確定するなど、企業および個人とも明るい材料に乏しい。
		司法書士	・一部住宅建築の着工が多少伸びているが、それ以外はあまり変わらない状況であり、全体的には大きな変化は期待できない。
	やや悪くなる	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・公共投資もそうだが、民間関係も息切れが心配されている。
悪くなる			
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・業種によって、求人が増加しているところとそうでないところに分かれているが、全体的に少し上向きな感じがある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・最近の企業の求人意欲が以前よりアップしているように感じている。ただし、正社員については高いスキルとキャリアを求められている傾向が若干強くなっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・建設業の求人件数がほぼ1年ぶりに前年を上回ったほか、病院介護系やアウトソーシング系の求人が好調であり、今後に期待が持てる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新年度への移行に伴う人事募集や欠員補充などが少しずつ増加傾向にあり、若干ではあるが回復の兆しが見られる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・通信業界への派遣は伸びているが、やはり業種によって求人数の偏りがある。
		職業安定所（職員）	・新規求人の理由は増員ではなく欠員補充であり、今後は増員や新設による求人の予定がない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・建設業及び関連産業が工事完了により、事業を縮小することから雇用需要が見込まれない。
	悪くなる		